

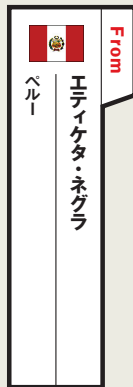
Business

高級化するウォーター・ビジネス

好きな時代のボトルをどうぞで…  
パタゴニア氷河に眠る 透明な石油

ワインの原産国として有名なチリが、天然水の産地として注目され始めている。その水にいち早く目をつけた企業が販売する高級水とは、いったい、どのようなものか?

Text by Jonathan Franklin



チ

リ人実業家のイアン・シドロフスキ(37)は「水はこうでなくては」と言っている。チリの水をワイングラスに注ぐ。フェラーリを思わせるような優雅な形のボトルに入っている。その水は、彼が家族で経営するウォーターズ・オブ・パタゴニア社が誇る商品「クレバス・グレイシャー・ウォーター」だ。

商業的価値のある水を見つけるのは

容易なことではない。この水に出会うには、まずチリの首都サンティアゴから飛行機で2000km南にあるパタゴニアに行く。そこから車で9時間かけてトルテル港を目指し、さらに船で南パタゴニア氷原まで渡る。この氷原の面積は1万6800km<sup>2</sup>に及ぶ。

氷原を流れる川から得られる水は、天然のままEUIが定める水の純度の基準を満たし、何の処理も必要としない。氷原は南半球の果てにあり、汚染が進む北半球から何千kmも離れているからだ。

ウォーターズ・オブ・パタゴニア社は、全長360km、厚さ400mの氷の塊から年間90億ℓの水を採取する法的権利



日本には2010年頃上陸予定

を持つている。本格的に事業が始まると、水は氷河のすぐそばに張られたテント内に設置された機械でボトル詰めされ、世界中の高級レストランや豪華な結婚式のテーブルなどで

注がれるようになる。ウォーターズ・オブ・

パタゴニア社は、ルネサンス期や中世に降った雨が凍った氷を溶かして販売することも計画中だ。同社は、氷の年代を測定する方法を開発し、特許を取得している。その方法を用

いれば、年代別の水の販売が可能になる。北欧のバイキングが好きな人なら10世紀の水を選んで購入することができるというわけだ。いずれは「18世紀の水と製法で作ったギネスビールは何か」などということも可能になりそうだ。

しかし、ウォーターズ・オブ・パタゴニア社の真の目的は水の量販だ。世界銀行の報告書には、「水は近い将来、今日の石油と同様に世界中に輸出されるようになるだろう」と書かれている。クレバス・ウォーターはいわば、透明な石油なのだ。

まるでジャンパンのよう

環境保護団体は、天然資源をビジネスに利用することや、毎年数十億本のボトルがリサイクルされずに捨てられているという点、そして、水不足で一日一杯の水も飲めない人が10億人以上いることなどを挙げて高級水を批判している。

しかし現在、水ビジネスの市場は400億ドル(約39兆4000億円)

にも及ぶ。ボトル詰めされた水の消費量は、1984年から05年のあいだに1000倍に増えた。欧州の人々は09年、水の購入に250億ユーロ(約3兆4000億円)を費やすと予測されている。また5年後には、水は炭酸飲料の売り上げを上回り、世界でもっとも多くの利益を生む飲料になるとされている。

世界屈指の水の専門家オーストリア人のミヒャエル・マーシャは、水に含まれる不純物の量を示すTDS数値やミネラル成分、水の純度、年代などから高級水を評価する。マーシャは、南パタゴニア氷原の水は、高級水の間でもとりわけ傑出した存在になりうる」と指摘している。チリは、純度の高い水を見つけるのに適した場所であり、人々は今後ますますこの国名を耳にするだろうというのだ。

パタゴニア氷河が広がる一帯を流れる川から直接水を飲むと、それはどんなビールよりも爽やかで、口いっぱいにまろやかな味が広がる。その味を知った者は、その感覚を形容する言葉を見つけないことができないだろう。

多くの人は、氷河の水にはとくに味はないと思うかもしれない。だが実際には、まるでジャンパンのようなのだ(もちろんアルコールは含まない)。口に含むと思わず笑みがこぼれる。そしてなによりも、人類が数十万年ものあいだ、このような水を飲んでいたと考えると、その喜びはいつそう大きくなるのだ。